

実践研究論文

言葉の力で自尊感情を高め、良好な人間関係を構築する自立活動 肯定的な言葉で他者に関わる力を培うソーシャルスキル・トレーニングの実践を通して

林田 真一* ・ 大野 愛哉** ・ 松山 郁夫**

Independent Activities to Increase Self-esteem and Build Relationships with Classmates

Practice social skills training to develop skills to relate to others in positive terms

Shinichi HAYASHIDA Aikana OHNO Ikuo MATSUYAMA

【要約】

本実践は、小学校自閉症・情緒障害学級に在籍する6年生の児童3名を対象とした。指導計画は全14時間であり、支援学級および交流級の自立活動時間において、言葉の力を付けることを目的としたソーシャルスキル・トレーニング、お互いの強みをほめ合い、認め合う活動を実践した。実践後のQ-Uテストの結果と児童らの感想・行動観察から、対象児童及び交流学級の児童らの承認感の高まりが示され、本実践は児童らが良好な人間関係を構築することができる一助となったことが示唆された。

【キーワード】

自閉症・情緒障害学級, 自立活動, ソーシャルスキル・トレーニング, ほめ合い・認め合い, 強み(strength)

1. 問題提起

A 私立 B 小学校自閉症・情緒障害学級 C 組には、6年生3名(D児, E児, F児)が在籍している。(他に2年生3名も在籍しているが、発達段階や困り感の違いから、2年生は、別のテーマで自立活動を行っている。本研究は、6年生を対象に実施するものである。)D児は、不安や憤りを言葉化できず、癇癪を起すことがある児童である。E児は、自分の要求を言葉化できず、友達に伝えることができない児童である。F児は、自分の感情や考えを言葉化できず、コミュニケーションが苦手な児童である。この3名に共通している課題は、語彙力(意味や使い方を理解している言葉を多く身に付けていること)と言語化能力(場や相手との関係性を考慮して、言葉を選び表出する力)が低いため、言葉で他者に適切に関わることができず、承認感が低く、交流学級に居心地のよさを感じる気持ちが低いことである。X-1年6月10日に取ったQ-Uアンケートでは、D児は要支援群に、E児とF児は非承認群に位置していた。

一方、いじめ事案からも分かるように、交流学級には、他の児童に対して、否定的な言動を取る児童が数名いる。担任が、C組の3名、そして、交流学級で友達に否定的関わりをすることがある児童と個別に話をすると、自尊感情が低いことが分かった。また、交流学級で、笑顔と肯定的な言葉が多い児童と話をする、これらの児童は、自尊感情が高く、友達に優しい言動を取ることも分かった。これらのことは、自分を認めきれない人間ほど、他者に攻撃的になること、自分に自信があり、明るい児童ほど、他者への承認感が高いことを示していると考えられる。

*佐賀市立開成小学校 **佐賀大学教育学部

D児、E児、F児が交流学級で自尊感情を高め、友達に関わる意欲を高め、良好な人間関係を築くためにも、D児をいじめた児童がD児やE児、F児、交流学級の他の友達に友好的に関わることができるようになるためにも、自尊感情が高く、友好的な児童が、今以上に良好な人間関係を築いていくためにも、取り組みの中に、担任が交流学級に出向き、D児、E児、F児と交流学級の児童らが、同じ時間、同じ場所で、お互いがお互いの強みをほめ合い、認め合う実践を位置付けることが必要であると考えた。

取り組みでは、主に前半は、支援学級でD児、E児、F児の語彙力や言語化能力など、言葉の力を身に付けさせるソーシャルスキル・トレーニング(以下 SST)を実践することにした。また、いじめ事案があったため、前半の実践の中に、交流学級でのいじめ対応の授業と、支援学級でD児、E児、F児が、お互いの強み(strength)をほめ合い、認め合い、お互いの自尊感情を高め合う実践を仕組んだ。実践後半には主に、交流学級で、学校行事や活動の前に、その行事や活動で出現するであろうD児、E児、F児や交流学級の児童らの強みを、児童らが、言葉でほめ合い、認め合い、励まし合い、労い合う練習をするSSTを実施した。また、般化(日常化)学習として、行事の練習や準備、本番で出現するD児、E児、F児や交流学級の児童らの強みに、児童らがお互いに肯定的言葉をかけ合う実践をさせた。これらの実践で、D児、E児、F児と交流学級の児童らが、今以上に自尊感情を高め、児童らに良好な人間関係を広げさせていくことができるのではないかと考えたのである。

2. 実践目的

以上により、本研究の目的は、小学校自閉症・情緒障害特別支援学級の自立活動において、支援学級の児童らに「ほめ言葉」、「認める言葉」、「励ます言葉」、「労う言葉」を身に付けさせ、交流学級の友達に関わる意欲と自信をもたせ、行事や活動の前半や練習時、本番での交流学級における自立活動や般化学習で、支援学級の児童らと交流学級の児童らに、お互いにほめ、認め、励まし、労い合う体験を積ませることが、各児童の承認感や自尊感情の向上、児童らの良好な関係性にどのような影響を及ぼすのかを考察する。

3. 実践内容

(1) 対象児の状態と課題

対象児の状態と課題については表1の通りであった。

表1 D児、E児、F児の状態と課題

D児:怒りや不安を感じた時、それを冷静に適切な言葉で表出することができず、癇癪を起したり、友達とトラブルになったりすることがある。自閉症スペクトラム症、レックリングハウゼン病、習字が上手、野球やドッジボールなど、球技が好き、タブレットのゲームが好き
E児:自分が、依頼事があった時や相談事があった時、それを適切な言葉で他者に伝えることができず、不安になったり、イライラしたりすることがある。自閉症スペクトラム症、軽度知的障害、軽度難聴、バスケットボールが得意、スケートボードが得意
F児:自分の思いや考えを聞かれたとき、適切な言葉が浮かばず、「分からない」と答え、自尊感情を下げる可能性がある。球技が得意でサッカーやバレーボールが好き、ハレーボール漫画「ハイキュー」を読んでいる。

(2) 研究の手順と分析方法

指導計画は、全14時間で実施した。まず、支援学級C組のD児、E児、F児に語彙力や言語化能力など、言葉の力を付けるための7時間は、『高機能自閉症・アスペルガー障害・ADHD・LDの子のSSTの

進め方 田中和代・岩佐亜紀著 黎明書房』、『小学生のためのソーシャルスキル・トレーニング 渡辺弥生・藤枝静暁・飯田順子編著 明治図書』、『12歳までに知っておきたい語彙力図鑑 齋藤孝著 日本能率協会マネジメントセンター』、『学校では教えてくれない大切なこと 24 言葉の力 語彙で広がる世界 オゼキイサム 旺文社』等を参考にして指導内容と方法を考え、実施した。交流学級におけるいじめ対応の1時間は、『イラスト版 子どものソーシャル 友だち関係に勇気と自信がわつく 42のメソッド 相川充・猪刈恵美子著 合同出版』、『イラスト版 子どものアサーション 自分の気持ちがきちんとと言える 38の話し方』等を参考にして指導内容と方法を考え、実施した。支援学級におけるD児、E児、F児の自尊感情を高めるための1時間は、『社会性と情動の学習(SEL-8S)の進め方 小学校編 小泉令三・山田洋平著 ミネルヴァ書房』を参考にして指導内容と方法を考え、実施した。交流学級における「薬物乱用防止教室を前に」の授業1時間は、『社会性と情動の学習(SEL-8S)の進め方 小学校編 小泉令三・山田洋平著 ミネルヴァ書房』、『自尊心を持たせ、きちんと自己主張できる子を育てるアサーショントレーニング 40リサ M.シャープ著 黎明書房』等を参考にして指導内容と方法を考え、実施した。その他の交流学級における授業4時間と般化学習は、『社会性と情動の学習(SEL-8S)の進め方 小学校編 小泉令三・山田洋平著 ミネルヴァ書房』、『小学生のためのソーシャルスキル・トレーニング 渡辺弥生・藤枝静暁・飯田順子編著 明治図書』等を参考にして指導内容と方法を考え、実施した。(本実践は本来20時間程度で計画されていたが、コロナ対応やインフルエンザ対応のため、14時間で実践を行った。)

各児童の変容については、X-15年6月2日に児童らから取ったQ-UアンケートとX年1月10日に取ったQ-Uアンケートを比較したもの、実践を通しての児童らの行動観察、そして、各授業後の児童らのふり返りの感想、般化学習後の児童らの感想を分析し、検討した。

(3) 指導計画

指導計画は、支援学級C組でのD児、E児、F児の3名に言葉の力を付けるための実践を7時間、交流学級におけるいじめ対応の実践を1時間、C組で3名の強みのほめ合い、認め合いの実践を1時間、学校行事や活動に合わせての交流学級での実践を5時間、その他に、授業ではなく、般化学習としてほめ合い、認め合いをする学習を行事や活動の準備や練習の段階と本番に、日常的に組んだ(表2)。

表2 全体計画

月日	実施クラス	実践内容
6/6	C組	われら、ことば探検隊①「NEWことばの言い換えことばクイズ」
6/16	C組	われら、ことば探検隊②「NEWことばの言い換えことばクイズ」
6/21	交流	いじめ対応「いじめを受けた人の悲しみを受けてめよう」
6/23	C組	われら、ことば探検隊③「NEWことばの言い換えことばクイズ」
6/30	C組	わたしたちは友だち、お互いをほめ合おう
7/7	C組	われら、ことば探検隊④「『～い』ことばを中心に」
9/1	C組	われら、ことば探検隊⑤「『～い』ことばを中心に」
9/8	交流	絆、ことばで応援隊「運動会へ向けて」

9/8～9/24 運動会の練習、本番でのほめ合い、励まし合いの般化学習

9/15	C組	われら、ことば探検隊⑥『『～い』ことばを中心に』	
10/10	交流	絆、ことばで応援隊「修学旅行へ向けて」	10/10～10/12 修学旅行の準備、本番での認め合い、励まし合いの般化学習
10/27	C組	われら、ことば探検隊⑦『『～い』ことばを中心に』	
11/6	交流	絆、ことばで応援隊「文化祭へ向けて」	11/6～11/12 文化祭での歌の練習、本番でのほめ合い、励まし合いの般化学習
11/30	交流	絆、ことばで応援隊「薬物乱用防止授業の前に」	
12/7	交流	絆、ことばで応援隊「N中学校説明会へ向けて」	

(4) 実施内容

実施内容については、表3から表19までの通りであった。

表3 6月6日 C組での自立活動

われら、ことば探検隊①「NEWことばの言い換えことばクイズ」:
中心活動 「えもい」、「えぐい」、「だるい」等の言葉を「NEWことば」として紹介し、「えもい」が「なつかしい」や「心がゆさぶられる」、「えぐい」が「残酷だ」や「半端じゃない」等の言葉に言い換えられることをクイズ形式で当て合うSSTを実施した。
D児、E児、F児の感想 D児:別の言葉に言い換えてみたら、少し意味が違ってくるのが分かった。 E児:自分が知らない言葉が、けっこうあることが分かった。 F児:今日、新しい言葉を覚えて、どういうときに使うのが分かった。

表4 6月16日 C組での自立活動

われら、ことば探検隊②「NEWことばの言い換えことばクイズ」:
中心活動 「やばい」、「すごい」、「うざい」等の「NEWことば」として紹介し、「やばい」が「危険だ」や「驚異的だ」、「すごい」が「極めて」や「圧倒的に」などの言葉に言い換えられることをクイズ形式で実施した。
D児、E児、F児の感想 D児:言葉って、とても楽しいものだった。 E児:いい言葉は、言い換えてもいい言葉だと分かった。 F児:「驚異的」や「圧倒的」と言う言葉を使って、人をほめることができた。

表5 6月21日 交流学級での自立活動

いじめ対応授業 いじめを受けた人の悲しみを理解し、受けとめよう:
いじめを受けたD児が交流学級でいじめた児童と一緒に授業を受けることを拒んだので、D児には支援学級で別の活動をさせながら、いじめ対応授業を実施した。
主な活動 E児とF児を含む交流学級の児童に、まず、「どんないじめが多いか」や「いじめの発生率」等の統計表を見せた後、法律の観点から「いじめ」についての理解を促し、「いじめの定義」を理解させ、あらかじめD児とD児の母親に話す了承を得ていた「いじめの様子とD児の気持ち」について理解させ、E児、F児、いじめた児童、その他の児童、交流学級の全員の児童が、他者の立場で考え、他者の痛みを理解でき、行動できる児童になることをめあてとして授業をした。
D児、E児、F児の感想 E児:いじめられたD君を助けて、保健室へ連れて行ったお友達のようにになりたいと思った。誰でも優しく接して、いじめをなくしたいと思った。

F児:いじめのことがくわしく分かった。いじめを見たら、助けられるようにがんばりたい。

交流学級児童の主な感想

G児:D君がいじめられていたら、すぐに行ってあげて、いじめを止めたいと思った。D君のお母さんもかわいそうだと思う。いじめを見たら、すぐに止めたいと思った。

H児:いじめは法律違反だということがよく分かった。いじめをした人だけでなく、見て見ぬふりをした人も加害者だと思った。いじめを見たら、すぐに止めたいと思った。

J児:クラスで起こったいじめを止められなかったけど、相手の気持ちを想像する想像力を身に付けたいと思った。

M児:自分はいじめをした立場だけど、相手のことを考えていなかった。もういじめはしない。想像力を鍛えたい。

B児:いじめは、された人とお母さんを傷つけると分かった。もういじめはしない。している人を見たら止める。

(感想には「いじめを見たら止められる人になりたい。」「いじめはダメだと思うだけでなく、行動に移せる人になりたい。」「いじめを見たら、見ていないふりをしないで助けようと思った。」「いじめは、いじめられた本人だけでなく、その家族も傷つける。いじめを減らす努力をしていきたい。」「相手がいじめられたと思ったら、それはいじめであることが分かった。自分も気付かないところでいじめをしているかもしれない。気をつけようと思った。」「いじめを減らすために友達と仲よくしていこう。どうすれば仲よくできるか考えていきたい。」「相手の立場を考えて行動できるようになりたい。」「いじめを受けた人の気持ち想像する想像力をもちたい。」等が多かった。)

表6 6月23日 C組での自立活動

われら、ことば探検隊③「NEWことばの言い換えことばクイズ」:

中心活動

「くやしい」、「感動した」、「かわいそう」等、使い方が多様な言葉を「NEWことば」として紹介し、「くやしい」が「残念だ」や「無念だ」、「感動した」が「ぐっと来た」や「胸を打たれた」等の言葉に言い換えられることをクイズ形式で実施した。

また、学習した言葉を使って友達をほめたり、励ましたりするロールプレイを実施した。

D児, E児, F児の感想

D児:ぼくの姿をほめてもらって、とってもうれしかった。

E児:(D君が喜んでくれて)自分もうれしくなった。

F児:D君が喜んでくれたので、うれしかった。

表7 6月30日 C組での自立活動

わたしたちは友だち、お互いをほめ合おう:

いじめを受けたD児をほめ、認め、D児に自信をもたせ、元気を取り戻させることを目的として、SSTの授業を実施した。

学習の流れ

- ① 18のことばを「ほめることば」、「励ますことば」、「傷つくことば」の3つに分ける仲間分けクイズをした。
- ② がんばっていることについてD児, E児, F児に担任がインタビューをした。(1人が担任からインタビューを受けているときは、他の2人には、そのインタビューを聞かせた。)
- ③ ①で学習した言葉を使って、D児, E児, F児にお互いをほめ合い、認め合うメッセージを書かせた。

D児からE児, F児へ

E児へのメッセージ:Eちゃんは本当にバスケットボールが好きなんですね。クラスでバスケをしているとき、本当に上手だったので、すごいなと思ったよ。スケートボードもできるなんてすごいね。Eちゃん、バスケットボールもスケートボードもがんばってください。

F児へのメッセージ:Fちゃん、サッカーがうまいので、すごいなと思いました。バレーボールはブロックもうまいし、アタックもうまくて素晴らしいなと思いました。Fちゃん、サッカーやバレーボールをもっとうまくなってください。

E児からD児, F児へ

D児へのメッセージ:Dちゃん、野球と習字、がんばってね。応援しているよ。ゆめに向かってファイト! もっと野球と習字、がんばって、すごい上手になってね。いつでもエールを送るよ。

F児へのメッセージ:Fちゃん、サッカーのドリブルやバレーのレシーブ、上手だね。もっと上手になって、ハイキ

ユーの人とかサッカーの人のようにがんばってね。応援しているよ。ファイト!

F児からD児, E児へ

D児へのメッセージ:Dちゃん, 野球の大会でホームランが打てるようにがんばってね。バッティング, 守備, がんばってください。習字も大会で優勝できるようにがんばってください。

E児へのメッセージ:バスケットでパス, がんばってね。チェイス・フィーラーみたいに上手になってください。スケボアのオーリーができるようにがんばってください。

- ④ 「友だちにことばのプレゼント」と題して, D児, E児, F児に, お互いにメッセージを述べ合わせ, メッセージを受けた感想を述べ合わせた。
- ⑤ 今日の学習の感想を書かせ, 発表し合わせた。

D児, E児, F児の感想

D児(メッセージを伝えて):伝えることができよかったです。また, やりたいなと思いました。

(メッセージをもらって):とてもうれしかったです。自分もうれしいし, 相手もうれしいんだろうなと思いました。

E児(メッセージを伝えて):(D児, F児が)うれしそうだったし, がんばれる感じになっていたと思った。

(メッセージをもらって):うれしかった。もっと練習してうまくなり, ゆめに向かってがんばりたいなとあらためて思った。

F児(メッセージを伝えて):Dちゃんがニコニコしてくれてうれしかった。Eちゃんもニコニコしてくれてうれしかった。

(メッセージをもらって):心がポカポカした。

表 8 7月7日 C組での自立活動

われら, ことば探検隊④「意味や使い方が分かることばを広げよう 『～い』ことば 形容詞」:

中心活動

「すごいー並外れている」、「おもしろいー魅力的」、「かわいいーあどけない」、「うれしいー喜々とする」、「楽しいーワクワクする」、「悲しいー切ない」、「つらいーやるせない」等, 26組の意味が対になる言葉で, 言葉当てクイズをした後, 対になる言葉を取り合う『～い ことば(形容詞)』神経衰弱をした。

D児, E児, F児の感想 (略)

表 9 9月1日 C組での自立活動

われら, ことば探検隊⑤「意味や使い方が分かることばを広げよう 『～い』ことば 形容詞」:

中心活動

「すがすがしいーすっきりしていて気持ちがいい。」、「かぐわしいーよい匂いがする様。心が惹かれる様。」、「いちじるしいーはっきりとわかる。程度が甚だしい。」、「うるわしいー乱れがなく, 整っている様。とても美しい様。」等, 文章から『～い ことば(形容詞)』を当てるクイズをした後, 担当が文章を読んで, 『～い ことば』を取り合うカルタをした。

D児, E児, F児の感想 (略)

表 10 9月8日 交流学級での自立活動

交流学級 ことば絆隊! 「温かいことばで 運動会を盛り上げ, 友だちと 絆を 深めよう!」:

担当が交流学級に出向き, 運動会の練習日や運動会本番で D児, E児, F児と交流学級の児童達, 交流学級の児童達同士の絆をほめ合い, 認め合い, 励まし合い, 労い合いの言葉で深めさせようとの目的で SST の授業を実施した。

学習の流れ

- ① みんなで「ひまわりの約束」を歌う。
- ② みんなで「使えそう, 使ってみたいことば(ほめ言葉, 励ます言葉, 労う言葉併せて30の言葉)」の仲間分けクイズをする。
- ③ 運動会版ミニ劇をする。
 - ・応援練習の時に「ほめ, 励ます, 労う言葉」のかけ合いでお互いを元気づけるミニ劇
 - ・団体演技「ソーラン」の練習の時に「ほめ, 励ます, 労う言葉」でお互いを元気づけるミニ劇
 - ・運動会の用具係の準備の時に「ほめ, 励ます, 労う言葉」でお互いを元気づけるミニ劇
- ④ 般化トライ学習で使う自立活動シートの使い方の説明
- ⑤ 本時の学習の感想を書く。

D児, E児, F児の感想

D児:「～い」言葉を、また、たくさん知ったのでうれしかった。

E児:いろいろな言葉が(ほめ言葉, 励ます言葉, 労う言葉の)どれに当たるかが分かった。

F児:みんなと仲間分けクイズをして楽しかった。

交流学級児童の主な感想

J児:ほめ言葉, 励ます言葉, 労う言葉にいろんな言葉があることを知った。

G児:言葉でほめたり, 励ましたり, 労うこともできるけど, 言葉で人を傷つけてしまうこともある。言葉は気を付けて使うことが大切だと分かった。

H児:学習した言葉を使って, これから(般化トライ学習を)がんばっていこうと思った。ミニ劇で, みんなが言葉に気持ちを込めて言っていておもしろかった。

K児:日ごろから, ほめ言葉, 励ます言葉, 労う言葉を使って, 友だちとの絆を深めたいと思った。まず応援練習で使おうと思う。

N児:今日の学習でほめ言葉, 励ます言葉, 労う言葉がたくさんあることが分かった。がんばっている友達に(学習した)言葉をかけてあげたいと思う。自分も言われたらうれしいと思う。

P児:これから運動会やいろんな行事があるので, 今日習った言葉を使って絆を深めたいと思った。

R児:今日習ったようないい言葉は, 人を明るくさせると思った。悪い言葉は, 人をいやな気持ちにさせる。いい言葉, ポカポカ言葉を増やしたい。

W児:今日の学習で心が温くなる言葉がたくさんあることが分かった。これからたくさんのよい言葉を使って, 運動会までにみんなともっと絆を深めたいと思う。

(絵感想には「いろんなほめ言葉, 励ます言葉, 労う言葉があることが分かった。これから, これらの言葉を使って友達と絆を深めていきたい」と書かれたものが多かった。)

表11 9月8日～9月24日 運動会での般化トライ学習

上述の9月8日のSSTで学んだ「ほめ言葉」, 「励まし言葉」, 「労う言葉」を使って運動会の準備や練習の時に, D児, E児, F児と交流学級の児童達, 交流学級の児童達同士が, 温かい言葉をかけ合うことで絆を深めることをねらいとして, 般化(日常化)学習を実践させた。

トライ学習の中でD児, E児, F児が友だちに言った言葉○, 友達から言われた言葉●

D児○:すごいね 一緒にがんばろう がんばれ～ よかった～

●:かっこいいね さすがだね やさしいね すばらしい だいじょうぶ いいね ありがとう
あきらめないで ゆっくり休んでね

E児○:すごいね 上手だね だいじょうぶ 一緒にがんばろう おつかれ様 いつもありがとう

●:すごいね 上手だね だいじょうぶ 一緒にがんばろう おつかれ様

F児○:すごいね かっこいいね すばらしい オッケー(OK) ナイス

●:すごいね かっこいいね さすがだね 上手だね やさしいね だいじょうぶ うまい
いつもありがとう

トライ学習の中でD児, E児, F児と交流学級の児童達が使った光る言葉

すごいね かっこいいね さすがだね やさしいね すばらしい いいね よかった ナイス
上手だね すてきだね うまい ナイス オッケー(OK) 器用だね 声が出ているね かわいいね
見とれたよ (そう)だよ 応援しているよ だいじょうぶ 一緒にがんばろう うまくいくよ
がんばれ あきらめないで 助かるよ いつもありがとう おつかれ様 ご苦労様 おかげ様
あなたのおかげ 大変だったね おだいに ゆっくり休んでね 等々

D児, E児, F児の感想

D児:いろんな言葉を言えてうれしかった。言葉って楽しいなと思った。またやりたい。

E児:(言葉で)きずなが深まったと思う。

F児:結構言えた。自分が普段からどんな言葉を使っているのかが分かった。

交流学級児童の主な感想

Y児:友達との会話の中で(自分が)たくさん温かい言葉を使っていることが分かった。もっと温かい言葉を使いたい。
 α児:言葉で応援することがいいことだと分かった。
 Y児:この学習を通して、自分に温かい言葉が少し増えたと思う。
 X児:いっぱいうれしいことを言われて、心がポカポカした。
 T児:この学習を通して、自分の心もよくなって、相手の心もよくなったんじゃないかなと思った。
 V児:「すごいね」って言えた。うれしかった。
 O児:この学習を通して、「ありがとう」等の言葉が自然と出るようになった。
 N児:仲が良かった友達ともっと仲よくなった。学習した言葉を使うと相手が笑顔になるし、言われたらとてもうれしくなることが分かった。
 (その他、「友だちと温かい言葉を交わして、絆を深められてよかった。」や「友達にたくさん温かい言葉をかけることができ
 た。いろんな友達からも温かい言葉をかけてもらってうれしかった。」等の感想があった。)

表 12 9月15日 C組での自立活動

われら、ことば探検隊⑥「意味や使い方が分かることばを広げよう 『～い』ことば 形容詞」:

中心活動

「思いがけない—予想していない出来事に会おう様。」「くわしい—説明などが細かいところまでなされている様子。詳細である。」「うらやましい—他人の様子を見て、自分もそうなりたいと思う気持ち。」「このましい—よい感じもてる様子。好みたい様子。」「こちよい—あることをした時の感じが快適である。快い。」「ありがたい—滅多にないことだ。相手の好意が嬉しく、感謝したい。」等、文章から『～い ことば(形容詞)』を当てるクイズをした後、担任が文章を読んで、『～い ことば』を取り合うカルタをした。

D児、E児、F児の感想 (略)

表 13 10月10日 交流学級での自立活動

絆、ことばで応援隊!「修学旅行、温かいことばで友だちと もっともっと 絆を 深めよう!」:

運動会に続き、修学旅行の準備や本番でもD児、E児、F児と交流学級の児童達、交流学級の児童達同士で温かい言葉をかけ合い、さらに絆を深めさせることをねらいとしてSSTの授業を実施した。

学習の流れ

- ① 9月8日～24日の般化トライ学習後に、児童達が書いた感想を読んだ担任の感動した思いを聞く。
- ② 児童達が修学旅行の準備、本番で「使ってみたい、使えそう」な言葉を出す。(発表する。)
- ③ 友達が発表した言葉を聞いて、「これ、使えそう」と思った言葉を学習シートに書く。
- ④ 修学旅行版ミニ劇(ロールプレイ)をする。
 - ・1日目のフィールドワーク、己如堂での場面のミニ劇
 - ・1日目の夜、ホテルでの夕食の場面のミニ劇
 - ・2日目の午後、長崎物産館でお土産を買う場面のミニ劇
- ⑤ 修学旅行の準備、本番の般化トライ学習で使う学習シートの説明を聞く。
- ⑥ 今日の学習の感想を書く。

D児、E児、F児の感想

D児(ワークシートに)いっぱいの言葉を書けた。
 E児:いろいろな言葉を修学旅行で使おうと思った。
 F児:ミニ劇がおもしろかった。

交流学級児童の主な感想

α児:この言葉(学習した言葉)を使うと絆が深まりそう。
 Y児:修学旅行での言葉、これで完璧。
 I児:学んだ言葉を使って、修学旅行がんばるぞ。
 J児:(修学旅行で)前よりたくさんポカポカ言葉が言えるようになりたい。
 L児:ポカポカ言葉をたくさん使って、楽しい修学旅行にしたい。
 T児(修学旅行で)みんなポカポカ言葉を使って、いい気持ちになれたらいいなと思った。
 Q児:自分が使ってみたい言葉を(ワークシートに)たくさん書いた。
 (感想には「学んだ言葉を使って修学旅行を楽しみたい。」「今日、学習した言葉を修学旅行で使えるよう、がんばる。」「修学旅行でもたくさんのポカポカ言葉を使いたい。」「いろんなポカポカ言葉があるんだなと思った。」等が多かった。)

表14 10月10日～10月12日 修学旅行での般化トライ学習

<p>上述の SST で児童達から出てきた「だよーね(そだよーね)」、「さすがだね」、「すごいね」、「一緒に行こう」等の言葉を使って、修学旅行前日、修学旅行1日目、2日目にD児、E児、F児と交流学級の児童達、交流学級の児童達同士が温かい言葉をかけ合い、さらに絆を深めさせることをねらいとして般化トライ学習を実践させた。</p>
<p>トライ学習の中でD児、E児、F児が友だちに言った言葉○、友達から言われた言葉●</p> <p>D児○:ありがとう すごいね ●:ありがとう (そう)だよーね～</p> <p>E児○:ありがとう オッキー(OK) いいよ ●:ありがとう (そう)だよーね～ いいよ</p> <p>F児○:ありがとう ●:(一緒に)行こう ありがとう</p> <p>トライ学習の中でD児、E児、F児と交流学級の児童達が使った光る言葉</p> <p>ありがとう (そう)だよーね ごめん すご～ すごいね いいね いいよ オッキー(OK) やさし～ やさしいね さすが よかった よかったね 上手だね ナイス サンキュー 楽しいね こんにちは (一緒に)行こう こっちに行こうよ エモ エモい だいじょうぶ 遊ぼう ドンマイ がんばろう がんばってね がんばったね がんばれ ごめん まじ? 見とれたよ やりましょう そういう時もあるさ おつかれ様 等々</p>
<p>D児、E児、F児の感想</p> <p>D児:「ありがとう」がたくさん言えた。絆がもっと深まった。 E児:ポカポカ言葉を使って、いい気持ちになった。 F児:みんなでフィールドワークをがんばった。</p>
<p>交流学級児童の主な感想</p> <p>G児:いろいろなポカポカ言葉が言えて、修学旅行が楽しく終わった。 H児:修学旅行、楽しかった。「よかったね。」が特に多かった。言われたりもしたので、うれしかった。 J児:ポカポカ言葉を自分から言えた。よかった。 K児:無意識に「OK。」、「ありがとう。」などの言葉が言えた。 L児:友達とポカポカ言葉をたくさん言い合って、仲よく楽しい修学旅行だった。友達との絆も深まった。 N児:ポカポカ言葉を使って、友達ともっと仲がよくなった。あまり話したことがない友達ともポカポカ言葉で少し仲がよくなったように思う。 O児:修学旅行を通して、チームで協力して励まし合ったり、ほめ合ったりすることができた。ポカポカ言葉で前より仲よくなれたと思う。 S児:フィールドワークが楽しかった。ポカポカ言葉を使うことができた。 T児:海外の人とコミュニケーションが取れてうれしかった。あまりしゃべらない人ともたくさん話し、その人のよいところを見つけて、仲よくできてうれしかった。 W児:みんなで協力し合う修学旅行だったので、意識しなくても「だよーね」、「いいね」、「ありがとう」などの言葉が自然に出てきた。とてもよかったと思った。 B児:自然と言えた。 (感想には「ポカポカ言葉で仲よくできた。」、「温かい言葉で友だちと絆を深めることができた。」、「自然とポカポカ言葉が言えた。」等が多かった。)</p>

表15 10月27日 C組での自立活動

<p>われら、ことば探検隊⑦「意味や使い方が分かることばを広げよう 『～い』ことば 形容詞」:</p>
<p>中心活動</p> <p>「ふさわしい—につかわしい。適している。」、「はずかしい—失敗して、気持ちがとががめて、情けない」、「ほほえましい—好ましく、思わず微笑みたくなる」、「ほこらしい—得意で自慢したい気持ちだ。」、「せつない—耐えがたいほど苦しい。物悲しい。寂しい。」等、文章から『～い ことば(形容詞)』を当てるクイズをした後、担任が文章を読んで、『～い ことば』を取り合うカルタをした。</p>
<p>D児、E児、F児の感想 (略)</p>

表 16 11月6日 交流学級での自立活動

<p>われら、言葉応援隊! 文化祭、歌と声をほめ合い、さらに絆を深めよう!:</p> <p>11月12日の文化祭で、交流学級の学年が出し物として「ゆうき」を歌うことになった。「ゆうき」の歌の練習の時や文化祭本番で、温かい言葉の力で児童達が、さらに絆を深めることができるよう、SSTの授業を実施した。</p> <p>学習の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 担任、児童達から「歌のほめことば」を出し合う。 ② 担任が「星空はいつも」を歌い、それを児童達がほめる練習をする。 ③ F児と他3人の男子が「われは海の子」を歌い、それを児童達がほめる練習をする。 ④ 3人の女子が「つばさをください」を歌い、それを児童達がほめる練習をする。 ⑤ D児、E児、F児と交流学級の児童達みんなで「ゆうき」を歌う。 ⑥ 今日の学習の感想を書く。
<p>D児、E児、F児の感想</p> <p>D児:こんなにほめ言葉があったので、すごかった。たくさん使いたい。</p> <p>E児:いい言葉をたくさん言えた。</p> <p>F児:歌がうまく歌えて、よかった。</p>
<p>交流学級児童の主な感想</p> <p>G児:いろいろ(ミニ劇で)歌った人に言葉を言えた。</p> <p>ミニ劇で歌ったH児:歌って、ほめてもらおうと、とてもうれしくていい気持ちになることが分かった。</p> <p>I児:「すごいね」、「バッチグー」、「その歌声、最高!」が言えた。</p> <p>J児:(ミニ劇の)歌を聞いて、「声が出ているね」などが言えた。</p> <p>L児:歌についてのほめ言葉をたくさん知れた。先生や友達の歌を聞いて、ほめ言葉を言うことができた。</p> <p>P児:歌を歌っている人が嬉しくなるような声かけが分かった。どんどん使っていこうと思う。</p> <p>S児:ミニ劇場(友達の歌)が楽しかった。</p> <p>T児:みんな(ミニ劇場で歌った人)一生懸命に歌を歌って、上手だった。</p> <p>W児:文化祭で、みんなともっと絆を深められるよう、たくさんのポカポカ言葉を使っていきたい。</p> <p>Y児:たくさんのポカポカ言葉が使えて、よかった。歌っている人がうまくて、すごかった。</p> <p>(ミニ劇で歌を歌った児童は、「大きな声で歌えた。ほめてもらって、うれしかった。」と言う感想が多く、ほめる練習の側の児童は、「たくさん歌のほめ言葉があることが分かった。」、「学習したほめ言葉で、ミニ劇で歌った人をほめることができた。」、「友達と絆を深められるよう、学習したポカポカ言葉を使っていきたい。」等の感想が多かった。)</p>

表 17 11月6日～11月12日 文化祭での般化トライ学習

<p>上述のSSTで学習した「きれいな声だね」、「ノリノリの歌いっぱいだね。」、「ステキな歌声だね。」、「イケてる歌声だね。」、「一緒に歌えてよかった。」、「その歌声、最高。」等の言葉を使って、文化祭の練習時や本番でD児E児、F児と交流学級の友達、交流学級の友達同士でほめ合い、認め合い、励まし合い、労い合いをして、さらに絆を深めさせる実践をさせた。</p>
<p>トライ学習の中でD児、E児、F児が友だちに言った言葉○、友達から言われた言葉●</p> <p>D児○:よかったよ～</p> <p>●:口を大きく開けているね 声が出ているね</p> <p>E児○:すごいね 声が出ているね</p> <p>●:歌、うまいね 声が出ているね</p> <p>F児○:大きい声だね</p> <p>●:歌、上手だね 声が出ているね</p>
<p>トライ学習の中でD児、E児、F児と交流学級の児童達が使った光る言葉</p> <p>声が出ているね 声、めっちゃ出ているね 声が大きいね 声、聞こえたよ いい声だね いいね いいやん よかったよ その声、あこがれる きれいな声だね 歌が上手だね 明るい歌声だね いい歌だね 集中して歌っているね かわいい歌声だね うまいね うまっ えぐっ 上手だね すてきだね すばらしい すごいね すごっ ありがとう がんばれ がんばって がんばろう おつかれ様 等々</p>
<p>D児、E児、F児の感想</p> <p>D児:「よかったよ～」をたくさん言えたので、うれしかった。</p> <p>E児:(文化祭が)楽しかった。すごかった。声を出せた。</p> <p>F児:(文化祭で)大きな声で歌えた。</p>

交流学級児童の主な感想

H児:口を大きく開けた。みんなが一生懸命に歌っていた。気持ちを込めてほめ言葉を言えた。

I児:緊張した。ちょっとだけだけど、ほめ言葉を言えた。

K児:みんなで励ましながら合唱に取り組めた。

L児:友達とそれぞれの歌声をほめ合い、歌うことができた。

P児:最後まで歌いきることができた。友達と声かけができた。

S児:合唱、楽しかった。

W児:本番では、みんなの心が一つになって歌えて、たくさんの温かい言葉が出ていたのでよかった。

Y児:みんなが協力して歌えたと思う。

(「緊張したけど、大きな声で歌えた。」、「友達と言葉をかけ合って、協力して歌うことができた。」、「みんなで歌えて楽しかった。」等の感想が多かった。)

表18 11月30日 交流学級での自立活動

違法薬物の害を知り、絶対に自分から使わず、誘われてもきっぱりと断れるようになろう!:

12月1日に交流学級の学年の「薬物乱用防止教室」があった。それに合わせて「違法薬物の害を知り、使わない、誘われても断る決意をもつ」授業をした。この授業は、いままでのほめ合い、認め合い、励まし合い、労い合いのなど、温かい言葉の授業とは異なり、「拒否する言葉」、「断り言葉」の学習を中心にした。

学習の流れ

- ① 薬物の犯罪の事例を聞く。薬物は意外と身近なところにあることを知る。
- ② 違法薬物と薬物乱用、違法薬物の危険性について知る
- ③ 青少年の違法薬物の検挙数とそこから言えることを知る。
- ④ 違法薬物の断り方(断り言葉や自分の身動き)について考え、学習シートに書く。
- ⑤ 友達が考えた断り方(断り言葉や自分の身動き)で、自分も使えると思うものを学習シートに書く。
- ⑥ 担任が「誘い役」、児童達が「きっぱりと断る役」になって、違法薬物を断るロールプレイをする。
- ⑦ 今日の学習の感想を書く。

D児, E児, F児の感想

D児:違法薬物を断る時の言葉が分かった。

E児:違法薬物は体に悪いことが分かった。

F児:薬物は危ないことが分かった。

交流学級児童の主な感想

感想には、「違法薬物は絶対だめだと分かった。」、「薬物を断る言葉が分かった。」、「はっきりと断ることが大切だと分かった。」、「薬物の怖さを知ることができた。」、「もし、誘われてもきっぱりと断る。」、「薬物に誘われた時の断り方が分かった。」、「薬物は絶対にしない。」、「誘われたら『はりのわに』で断り、すぐに大人や警察に知らせようと思った。」、「薬物をしないよう、気を付けたい。しっかりと断りたい。」等があった。

表19 12月11日 交流学級での自立活動

N中学校について、見たいところや知りたいことを2つ以上考えよう:

12月11日は来年度、D児、E児、F児や殆どの6年生の児童達が入学するN中学校説明会であった。それに合わせて、児童達がN中についてお互いの興味や疑問を教え合い、みんなで仲よく説明会に臨ませようとSSTの授業を実施した。

学習の流れ

- ① 担任が用意したN中クイズに答える。
- ② N中のことについて、見たいところ、知りたいことを2つ以上考え、学習シートに書く。
- ③ N中について、見たいところ、知りたいことを発表し合う。
- ④ 今日の学習の感想を書く。

D児, E児, F児の感想

D児:N中のことが分かった。

E児:N中のことがいろいろ分かった。

F児:(欠席)

交流学級児童の主な感想

感想には、「N中のことが分かった。」、「N中のことをもっと知りたくなった。」、「N中見学会が楽しみになった。」、「見学会でN中のことをもっと知りたい。」、「N中見学会で質問したいことが分かったので、聞けたらいいなと思った。」

「N中見学会で知りたいことを考えることができた。」等があった。

4. 実践結果

Q-Uアンケートの結果 □□□□ R5. 6/2 → R6. 1/10 ←

(1) D児の変容

図1は、X-1年6月2日とX年1月10日に取ったD児、E児、F児が交流学級をどう思っているか、交流学級の友達とどうかを見るためのQ-Uアンケートの結果である。6月2日の記録では、D児は要支援群にいたことが示された。(この記録は、D児がいじめを受ける前の記録である。)

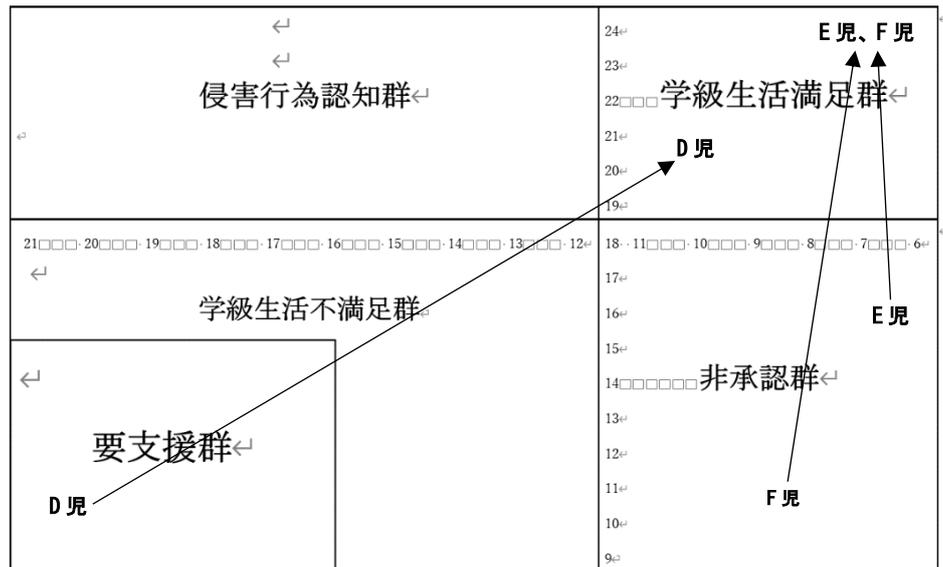


図1 Q-Uアンケートの結果

6月上旬のいじめの後、D児は支援学級でも元気がなく、

時として塞ぎ込むような日々が続いたが、6月30日の支援学級C組での「わたしたちは友だち、お互いをほめ合おう」の実践の後、少しずつ元気を取り戻した。6月30日の実践は、D児、E児、F児がお互いの強み(strength)をほめ、認め合う実践であったが、D児は、この実践で自分の強みである習字のうまさ、野球が大好きというところをE児とF児からほめ、認められることで少しずつ自尊感情を高めていったと思われる。9月8日の実践「温かい言葉で運動会を盛り上げ、友だちと絆を深めよう」とその後の般化トライ学習、10月10日の実践「修学旅行、温かい言葉で友だちともっと絆を深めよう」と修学旅行での般化トライ学習を経て、以前より交流学級の友達と関わるようになったD児は、少しずつ話したり、遊んだりする友達を増やしていった。11月6日の実践「文化祭、歌と声をほめ合い、さらに絆を深めよう」の後の般化トライ学習で、D児は、合唱の練習時に音楽の先生や友達から「口を大きく開けているね」、「声が出ているね」とほめられ、文化祭本番で一生懸命に合唱曲を歌った。そして、今では「中学校では合唱部に入りたい。」という希望をもつようになった。

本実践が一助となり、D児は交流学級の友達と良好な人間関係を構築し、交流学級に居心地のよさを感じられるようになったと考える。

(2) E児の変容

E児のQ-Uアンケートの結果を見ると、6月2日は非承認群に位置していたが、1月10日は学級生活満足群に位置していることが示された。

C児は9月8日の実践「温かい言葉で運動会を盛り上げ、友だちと絆を深めよう」とその後の般化トライ学習の後、休み時間など、交流学級で親しい友達を支援学級C組に連れてくるようになった。10月10日の実践「修学旅行、温かい言葉で友だちともっと絆を深めよう」と修学旅行での般化トライ学習の後、連れてくる友達の数が増えた。E児は笑顔が増え、担任にも自分の好きなことや夢を話すようになった。11月、担任がE児に「友達が増えたね。」と話すと、E児は「うん。」と答えた。

本実践は、E児にとっても、E児が交流学級で友達を増やし、その友達と仲よくし、E児が交流学級に居心地のよさを感じられるようになることを推し進めたと考える。

(3) F児の変容

F児のQ-Uアンケートの結果を見ると、E児と同様、6月2日は非承認群に位置していたが、1月10日は学級生活満足群に位置していることが示された。

F児はスポーツが得意であるが、歌も上手である。進んで人前で何かをすることを好まないF児だが、11月6日の実践「文化祭、歌と声をほめ合い、さらに絆を深めよう」での「友達が歌を聞いてほめる練習をしよう。」では、交流学級の3人の友達と一緒に「われは海の子」を歌った。F児は以前より積極的に活動するようになった。体育の時などは、友達にボールの投げ方を教えている姿、自分がキャッチしたボールを友達に譲る姿をよく見かけるようになった。F児は以前よりも交流学級の友達と活発に遊んでいる。

本実践はF児にとっても、F児が友達を増やし、交流学級で積極的に活動できるようになることの第一歩になったと考える。

(4) D児、担任とD児をいじめた児童について

B児をいじめた児童達は、6月初旬、いじめ事案の聞き取り後や6月21日のいじめ対応授業後、D児と気まずい雰囲気であった。担任とも目を合わせず、たまたま目が合っても、すぐに目をそらしてそっぽを向いていた。しかし、9月8日の実践「温かい言葉で運動会を盛り上げ、友だちと絆を深めよう」の後、少しずつ担任と目を合わすようになり、笑顔を向けるようになった。10月10日の実践「修学旅行、温かい言葉で友だちともっと絆を深めよう」の後、担任と会話を交わすようになった。支援学級C組にも数回遊びに来た。今では、学校内で会えば、少し立ち話をする間柄になっている。この児童達は9月8日の実践以降、D児とも気まずさが取れ、話すようになり、今ではお互いを名字で呼び合う間柄になっている。

D児をいじめた児童達も今回の実践のトライ学習では「すごっ」、「上手だね」、「さすがだね」、「おつかれ様」、「(そう)だよね」、「やさし〜」、「いいね」、「うまいね」、「あこがれる」等の言葉を友だちに使うようになり、D児とも、他の交流学級の友達とも肯定的に関わるようになってきている。

本実践は、D児、E児、F児、3名の支援学級の児童にも、交流学級の児童達にとっても、肯定的言葉により、人間関係を良好にする取り組みとして成果があったと考える。

5. 考察

本実践の結果から、言葉の力を付け、ほめ合い、認め合いを導入した自立活動を行うことにより、D～F児全員が「学級生活満足群」となり、学級の友人との関係が良好になり、学級に居心地の良さを感じるようになったことが示された。福井(2019)は、自身や他者の良さに気が付いたり、それを相手に伝え合ったりといったほめ合い・認め合いの活動は、児童の自己有用感(他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受け止める感覚; 鎌田ら, 2019)を高めることを指摘している。

本実践においても、D児、E児、F児それぞれが自身の得意なこと、好きなことを周囲からほめ、認められることにより、自己有用感や自尊心を高め、学級内での適応に繋がっていったと考えられる。また、近年では自身の強みを特定したり活用・育成することを促したりすることによって幸福感を促進することを目指す強み介入(Strengths Interventions; Ghielen et al., 2018等)が実施され、様々な効果が示されている。阿部ら(2021)は自身の強みの認識と他者の強みへの注目は生活満足度と正の相関を示し、強みの活用感は抑うつ症状を提言させることを示した。本実践においては、それぞれの児童の強み(strength)に着目し、それを取り上げるといったことも中心としたため、児童が自身の強みを認識せざるようになり、かつ他者の強みへと着目できるようになったことにより、学級生活の満足度の向上へと繋がっていったのではないかと推察される。

次に、今回の実践での気付きを、以下2点から考察する。1点目は、「ほめ、認め、励まし、労うなど、肯定的な言葉を使うことで良好な人間関係を築こう」という今回の実践にD児、E児、F児、そしてD児

をいじめた児童，その他の交流学級の児童も，全員が真面目に取り組んだということである。岡安・高山（2000）によると，いじめの被害者だけでなく，いじめの加害者も心身の健康状態は良好ではなく，自分自身のストレス症状を緩和するための反社会的な対処行動のひとつとしていじめを行っている可能性が指摘されている。そのため，いじめをした児童や，普段，否定的な言動が多い児童も，自他を肯定的に受けとめようとする場を提供し，ストレスを緩和すれば，ほめ，認め，励まし，労う言葉に心地よさを感じ，自ら肯定的な言葉を使い，良好な人間関係を築こうとするのではないかと考えられる。支援学級の児童であっても，交流学級の児童であっても，本来，児童は肯定的言葉を好み，良好な人間関係を望むということは，本実践の中で得られた気づきの一つである。

2点目は児童らが言葉で友人の何をほめ，何を認めていたかについて，般化学習での学習シートや感想，児童らの言動の観察からの気づきである。まず，それは他の人と比べて秀でた技や力等であった。しかし，それよりも多かったのは，一見，当たり前のように見えるけれども，「その人なりにがんばっていること」，「その人が，その人なりに意識してやっていること」であった。

児童らは，他の人と比べるとほめるに値しないことかもしれないが，その人自身の中で比較すると伸びていること，その人なりに，その人らしく意識してやっていることをほめ，認めていた。例えば，歌の練習の時，低い声で歌っている児童だが，その児童としては精いっぱい出している声，低いけども，その子なりに，その子らしく一生懸命に出している声，そのような友達の声を児童達はほめ，認めていた。児童達がほめ，認めていたものは，その人にとって“オンリーワン”というべきものが多かったのである。また，その“オンリーワン”をほめ，認められたとき，児童達は喜びを感じているようであった。これは児童の結果や能力に着目するのではなく，頑張りや努力に着目すること（努力帰属的評価，Weiner, 1979）とも言える。

努力を認められることは，「努力すればできる」といった児童自身の統制感を強め，動機付けを高めることが指摘されている（玄，1993）。また人は，オンリーワンと言うべきものを見出され，ほめ，認められたとき，喜びを感じ，自尊感情を高めると考えられる。そして，オンリーワンをほめ，認めてくれた人と絆を深め合い，良好な人間関係の構築につながると考えられる。

本実践での課題点について記述する。本実践は，主に前半は支援学級C組での学習，後半は交流学級での行事前の学習やその後の般化学習となるように仕組んでいる。C組での実践でD児，E児，F児が身に付けた語彙力や言語化能力が，交流学級の友達とほめ，認め合い，励まし，労い合うときに役立つようにという願いで，そのように仕組み，取り組んだのである。しかし，D児，E児，F児の学習シート等を見ても，かならずしも，C組で学んだ語彙力や言語化能力が，交流学級での学習に役立ったとは言えないということが示された。同じテーマの自立活動を支援学級と交流学級で取り組む場合，担任は，支援学級での自立活動が，交流学級での自立活動と連動し，支援学級での実践が，交流学級での実践に役立つようになることを願っている。交流学級の実践に役立つ支援学級での実践をどう仕組んでいくか，それが今後の課題点であるといえる。

謝辞

本実践の対象者である児童およびその保護者，協力して下さったすべての教員に感謝の意を表したい。また，本実践の成果は，交流学級担任の交流学級における素晴らしい人権意識に満ちた学級経営の支えによる成果であった。交流学級の担任に感謝の意を表したい。支援学級の児童，交流学級の児童が同じ時間，同じ場で共通の実践をする場合，それが成果を上げるか否かは，交流学級の学級経営にかかっているということは，大きな気づきの1つであった。

引用文献

- 阿部 望・岸田 広平・石川 信一 「強み介入が中学生の精神的健康に及ぼす効果に関する検討」 教育心理学研究, 69(1), 64-78, 2021
- 福井 悟 「自己有用感を高める学級活動の工夫ー承認とフィードバックによる相互評価を通してー」, 上越教育大学教育実践研究, 29, 199-204, 2019
- Ghielen, Woerkom & Meyers 「Promoting positive outcomes through strengths interventions: A literature review」, *The Journal of Positive Psychology*, 13(6), 573-585, 2018
- 玄 正煥 「努力帰属的評価が児童のエフィカシー予期の認知と学業達成に及ぼす効果」 教育心理学研究, 41(2), 221-229, 1993
- 鎌田淑博・池田誠喜・芝山明義 「中学生の自己有用感と生活満足感との関連」 兵庫教育大学教育実践学論集 (20), 49-58, 2019
- 岡安 孝弘, 高山 巖 「中学校におけるいじめ被害者および加害者の心理的ストレス」 教育心理学研究, 48 巻 4 号 410-421, 2000
- Weiner, B 「A theory of motivation for some classroom experience.」 *Journal of Educational Psychology*, 71, 3-25. 1979

参考文献

- 相川 充・猪狩 恵美子 『イラスト版子どものソーシャルスキル 友だち関係に勇気と自信がつく42のメソッド』 合同出版 2010.
- 石井 哲夫 『自閉症と受容的交流療法』 中央法規出版 1995
- 岩瀬 利郎 『発達障害の人が見ている世界』 出版社アスコム 2022
- 小泉 令三・山田 洋平 『社会性と情動の学習 (SEL-S8Sの進め方)』 ミネルヴァ書房 渡辺 弥生・藤枝 静暁・飯田 順子編 2011
- 三木 崇弘 『凸発達障害凹のためのおとなのこころがまえ』 KODANSHA 2023
- 宮尾 益知 『ASD、ADHD、LD 発達障害の子どもが持っている長所に気づいて、伸ばす本 隠れている得意をつぶさない対応とサポート』 河出書房新社 2020
- 文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編』 2018
- 村中 直人 『〈叱る依存〉がとまらない』 紀伊國屋書店 2022
- 村田 豊久 『自閉症』 日本評論社 2016
- オゼキイサム 『言葉の力～語彙で広がる世界～』 旺文社 2019
- リサ M. シャープ・上田 勢子 (翻訳) 『自尊感情を持たせ、きちんと自己主張できる子を育てる アサーショントレーニング40』 黎明書房 2011
- 齋藤 孝 『12歳までに知っておきたい語彙力図鑑』 日本能率協会マネジメントセンター 2022
- 佐賀県教育委員会 『特別支援学級及び通級指導教室担当のための手引き』 2019
- 園田 雅代・鈴木 教夫・豊田 英昭 『イラスト版子どものアサーション 自分の気持ちがきちんと言える38の話し方』 合同出版 2013
- すぎむら なおみ+「しーとん」 『発達障害チェックシートできました』 生活書院 2010年
- 高取 しづか+JAMネットワーク 『イラスト版気持ちの伝え方 コミュニケーションに自信がつく44のトレーニング』 合同出版 2007
- 田中 和代・岩佐 亜紀 『高機能自閉症・アスペルガー障害・ADHD・LDの子のSSTの進め方』 黎明書房 2008
- 上野 一彦・岡田 智・森村 美和子・中村 敏秀 『特別支援教育をサポートする 図解 よくわかる

言葉の力で自尊感情を高め、良好な人間関係を構築する自立活動
林田真一・大野愛哉・松山郁夫

SST 実例集』 ナツメ社 2012

渡辺 弥生・藤枝 静暁・飯田 順子 編著 『小学生のためのソーシャルスキル・トレーニング』 明治図書 2019

山本 眞利子 『ストレングスアプローチワークブック』 ふくろう出版 2011

山本 眞利子 『ストレングスの認知行動療法ワークブック 願い・希望・可能性をつなぐ～くもりのち虹～』 ふくろう出版 2012